



福井県 南越前町 文化財 マップ

編集・発行 南越前町教育委員会



南越前町ホームページ
<http://www.town.minamiechizen.lg.jp>

南越前町観光情報サイト
<http://minamiechizen.com>

南越前町内 文化財一覧

国指定文化財(3件)

種類	番号	名称	地図	所在地
建築物	1	中村家住宅	B-1	河野(旧田代)
史跡	2	杣山城跡	B-4	阿久和・中ノ島・社谷(南越前町)
名勝	3	伊藤氏庭園	C-5	瀬戸(個人)
名勝	3	カモシカ		地域を定めず

県指定文化財(10件)

種類	番号	名称	地図	所在地
建築物	1	旧京藤善五郎家住宅	C-3	今庄(南越前町)
彫刻	2	十一面観音菩薩立像	A-1	瀬戸(個人)
	3	王の面	B-4	堂宮(南甘神社)
	4	聖観世音菩薩坐像	D-4	八坂(観音堂)
工芸品	5	御正鉢(2面)	C-5	小倉谷(白山神社)
工芸品	6	湯尾峠孫崎子遺品一式	C-3	湯尾・今庄(個人ほか)
無形	7	上野の盆踊り	B-4	上野(上野盆踊り保存会)
無形	8	今庄羽根曾踊	C-3	今庄(今庄羽根曾踊り保存会)
無形	9	八坂神社の獅子舞	D-4	八坂(八坂会)
無形	10	橋ノ木峠のトノノキ	D-3	坂取

町指定文化財(84件)

種類	番号	名称	地図	所在地
建築物	1	宝篋印塔	C-3	湯尾(妙法寺)
絵画	2	船給馬仁恵丸	B-2	河野(八幡神社)
	3	釈迦涅槃図	B-3	西大進(妙法寺)
	4	寒山十得図	C-3	今庄(清心寺)
	5	釈迦涅槃図	C-3	今庄(徳善寺)
	6	蓮如上人絵伝(4幅)	D-4	大門(曹生神社)
	7	能面(7面)	B-3	清水(馬野神社)
	8	獅子頭	B-3	清水(馬野神社)
	9	阿弥陀如来坐像	B-3	島(南甘神社)
	10	釈迦如来坐像	B-3	西大進(妙法寺)
	11	聖観音菩薩立像	B-4	瀬戸(個人)
	12	阿弥陀如来立像	B-4	下牧谷(浄福寺)
	13	地藏菩薩立像	B-4	上牧谷(金馬塚)
	14	不動の行像	B-4	上牧谷(金馬塚)
	15	役の行者立像	B-4	上牧谷(金馬塚)
	16	不動明王立像	B-4	上牧谷(金馬塚)
	17	能面(7面)	B-4	清水(馬野神社)
	18	駒犬(1対)	B-4	堂宮(南甘神社)
	19	瓜生保念持仏	C-3	湯尾(徳善寺)
	20	地藏菩薩立像	C-3	湯尾(浄土寺)
	21	阿弥陀如来坐像	C-3	湯尾(浄土寺)
	22	阿弥陀如来坐像	C-4	社谷(白山神社)
	23	地藏菩薩立像・道祖神	C-4	久喜(八幡神社)
	24	神像	C-4	古木(神明神社)
	25	能面	B-5	松木俣(白山神社)
	26	地藏菩薩立像	C-3	今庄(清心寺)
	27	阿弥陀如来坐像	C-3	今庄(徳善寺)
	28	阿弥陀如来坐像	C-3	今庄(徳善寺)
	29	阿弥陀如来立像	C-3	今庄(徳善寺)
	30	薬師如来坐像	C-3	今庄(南越前町)
	31	地藏菩薩立像(3面)	C-3	南今庄(徳善寺)
	32	能面	C-3	下新道(徳善寺口神社)

国指定文化財(3件)

種類	番号	名称	地図	所在地
彫刻	33	阿弥陀如来立像	C-3	大明(徳光寺)
	34	地藏菩薩立像(言奈地蔵)	D-3	二ツ屋(地蔵堂)
	35	武内宿弥坐像・女神像	C-4	合波(白龍神社)
	36	十一面観音菩薩坐像	C-4	大門(曹生神社)
	37	日光・月光菩薩立像	D-4	八坂(観音堂)
	38	能面(11面)	D-4	宇津屋(八幡神社)
	39	十一面観音菩薩立像(2面)	D-4	広野(春日神社)
	40	能面(10面)	D-4	広野(春日神社)
	41	大太刀(藤原重高)	B-4	堂宮(南甘神社)
	42	双盤	B-4	阿久和(谷山道場)
	43	双盤	B-4	阿久和(真光寺)
	44	笛(黒鹿)	C-3	湯尾(徳善寺)
	45	刀(備前助家)	C-3	湯尾(徳善寺)
	46	懸仏	C-4	八乙女(白山神社)
	47	懸仏(7面)	C-5	小倉谷(八幡神社)
	48	供盆(4面)	B-5	杉谷(八幡神社)
	49	懸仏(3面)	B-5	杉谷(八幡神社)
	50	鉤口	C-3	今庄(南津)
	51	鉤口	D-4	宇津屋(八幡神社)
	52	懸仏(3面)	D-4	広野(春日神社)

工芸品

種類	番号	名称	地図	所在地
工芸品	42	大太刀(藤原重高)	B-4	堂宮(南甘神社)
工芸品	43	双盤	B-4	阿久和(谷山道場)
工芸品	44	双盤	B-4	阿久和(真光寺)
工芸品	45	笛(黒鹿)	C-3	湯尾(徳善寺)
工芸品	46	刀(備前助家)	C-3	湯尾(徳善寺)
工芸品	47	懸仏	C-4	八乙女(白山神社)
工芸品	48	懸仏(7面)	C-5	小倉谷(八幡神社)
工芸品	49	供盆(4面)	B-5	杉谷(八幡神社)
工芸品	50	懸仏(3面)	B-5	杉谷(八幡神社)
工芸品	51	鉤口	C-3	今庄(南津)
工芸品	52	懸仏(3面)	D-4	広野(春日神社)

書跡

種類	番号	名称	地図	所在地
書跡	53	蓮如上人六字の名号	C-3	今庄(正覚寺)
書跡	54	制札(2枚)	C-4	大門(曹生神社)
書跡	55	御物石器	C-5	小倉谷(徳善寺)

彫刻

種類	番号	名称	地図	所在地
彫刻	56	湯尾峠孫崎子遺品	C-3	湯尾(個人)
彫刻	57	愛王丸並びに義景北方位牌	C-3	今庄(内院寺)
彫刻	58	大般若経(100巻)	D-4	宇津屋(八幡神社)
彫刻	59	大般若経(100巻)	D-4	広野(春日神社)
彫刻	60	上野古典立華	B-4	上野(上野盆踊り保存会)
彫刻	61	糖のどっさり	A-1	瀬戸(個人)
彫刻	62	甲斐城東いとせ	B-1	甲斐城(甲斐城東いとせ保存会)
彫刻	63	上野はねそ踊り	B-4	上野(上野盆踊り保存会)
彫刻	64	特務隊関東の遭難の跡	1	瀬戸(特務隊遭難追善会)
彫刻	65	下長谷の洞窟	C-4	古木(田倉川と暮らしの会)
彫刻	66	法華岩	B-1	甲斐城(甲斐城拠点公園)
彫刻	67	西街道(馬借街道)	B-1	今泉
彫刻	68	マンダラ寺遺跡	B-2	赤萩
彫刻	69	石造りアーチ橋(桜橋)	B-2	赤萩(桜橋総合運動公園)
彫刻	70	円宮寺の避難洞窟	C-2	河内
彫刻	71	たこの呼び像	C-2	大谷
彫刻	72	湯尾峠	C-3	湯尾(徳善寺)
彫刻	73	文政の道しるべ	C-3	今庄(南越前町)
彫刻	74	鏡ヶ城跡	D-3	二ツ屋(木ノ塚跡)
彫刻	75	丸岡藩御柱	D-3	坂取(木ノ塚跡)
彫刻	76	丸岡藩御柱	C-4	合波(個人)
彫刻	77	丸岡藩御柱(2基)	D-4	大門(曹生神社)
彫刻	78	鉢伏城跡	D-2	二ツ屋(鉢伏山)
彫刻	79	観音丸城跡	D-3	坂取(木ノ塚跡)
彫刻	80	木ノ塚城跡	D-3	坂取(木ノ塚跡)
彫刻	81	藤ノ森の群生	C-2	大谷
彫刻	82	大谷のムクロジ	C-2	大谷
彫刻	83	柳	D-3	二ツ屋(白甘神社)



国登録有形文化財(14件)

種類	番号	名称	地図	所在地
建築物	1	旧近家住宅 西洋館	B-1	河野(南越前町)
有形文化財	2	アカカン砂防 大平ミズヤ下埋堀	C-4	古木(田倉川と暮らしの会)
	3	アカカン砂防 大平ミズヤ下埋堀	C-4	古木(田倉川と暮らしの会)
	4	アカカン砂防 大平中堰堤	C-4	古木(田倉川と暮らしの会)
	5	アカカン砂防 大平子ペカマ堰堤	C-4	古木(田倉川と暮らしの会)
	6	アカカン砂防 大平口堰堤	C-4	古木(田倉川と暮らしの会)
	7	アカカン砂防 松ヶ堰堰堤	C-5	古木(田倉川と暮らしの会)
	8	アカカン砂防 奥の東堰堤	C-5	古木(田倉川と暮らしの会)
	9	アカカン砂防 八号堰堤	C-5	古木(田倉川と暮らしの会)
	10	アカカン砂防 九号堰堤	C-5	古木(田倉川と暮らしの会)
無形文化財	11	高倉砂防 西高倉堰堤	C-5	瀬戸(高倉谷川砂防堰堤の会)
無形文化財	12	旧旅館 若狭屋	C-3	今庄(旧NP法人今庄旅館)
無形文化財	13	明治殿	C-3	今庄(南越前町)
無形文化財	14	旧昭和三館	C-3	今庄(今庄地区公民館)

指定・登録文化財件数

種類	国指定	県指定	町指定	国登録	計
有形文化財	1	1	1	14	17
無形文化財	0	0	0	5	5
書跡	0	3	34	0	37
工芸品	1	12	13	0	26
書跡	0	2	2	0	4
考古資料	0	1	1	0	2
歴史資料	0	1	1	0	2
無形民俗	1	4	4	0	9
民俗	0	1	1	0	2
民俗	1	3	3	0	7
史跡	1	18	19	0	38
名勝	1	0	1	0	2
天然記念物	0	1	3	0	4
計	3	10	84	14	111

伝統的民家群保存活用推進地区(2地区)

種類	名称	所在地
旧朝倉街道	上野地区	上野
北国街道	今庄地区	今庄

編集・発行 南越前町教育委員会
〒919-0203 福井県南条郡南越前町牧谷29-15-1
TEL (0778) 47-8005 FAX (0778) 47-7010

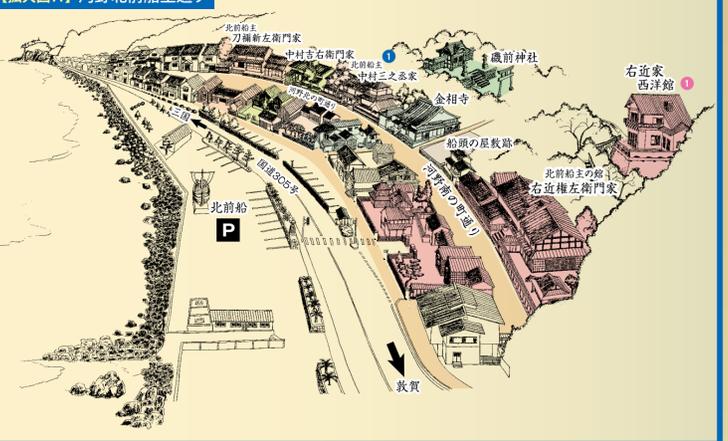


南越前町への交通アクセス

○お車の場合、北陸自動車道 敦賀IC・今庄IC・南条S.AスマートIC・武生ICをご利用ください。
○JRの場合、北陸本線 敦賀駅・今庄駅・南条駅または、武生駅をご利用ください。

【お車で越しの方】
京都・大阪 名神高速道路 米原JCT 北陸自動車道 敦賀IC→今庄IC→南条S.AスマートIC→武生IC
名古屋 名神高速道路 米原JCT 北陸自動車道 敦賀IC→今庄IC→南条S.AスマートIC→武生IC
富山・金沢 北陸自動車道 敦賀IC→南条S.AスマートIC→今庄IC→武生IC
※ご注意ください。南条S.AスマートICは「ETC専用」で利用時間は「6～22時」となっています。

【JRご利用の方】
京都・大阪 JR東海道線・東海道線 敦賀駅 JR北陸線 今庄駅 南条駅 武生駅
名古屋 JR東海道線・北陸線 敦賀駅 JR北陸線 今庄駅 南条駅 武生駅
東京 JR北陸新幹線 富山・金沢 JR北陸線 武生駅 南条駅 今庄駅 敦賀駅



歴史の道 峠・街道・近代化遺産



60 木ノ芽峠 D-3
平安時代/板取・ニツ屋 町指定

木ノ芽峠は、天長7(830)年に北陸道として開削されました。以降1200年の間、紫式部や親鸞・蓮如、木曾義仲や新田義貞、信長・秀吉軍、松尾芭蕉もこの峠を越えて行きました。標高628mに位置し、国境・藩境としての番所があり、その任に当たった前川家の茅葺き住宅が今も残っています。この一帯は度重なる戦場にもなり城跡も多く残っています。



73 文政の道しるべ C-3
江戸時代後期/今庄 町指定

木ノ芽峠越え(北国街道)と木ノ芽峠越え(北陸道)の道分岐に文政13(1830)年に立てられた道しるべです。以前は木造でしたが、大黒屋由兵衛が頭役となり、笏谷石で建てられました。頭部分に大袋がある珍しい石柱です。

碑文「右京、敦賀・若狭(北陸道) 左京、伊勢・江戸(北国街道)」



10 板ノ木峠のトチノキ D-3
樹齢推定500年 板取 県指定

板ノ木峠(537m)を通る北国街道は、天正6(1578)年、北の庄城主・柴田勝家が東近江街道として大改修し、人馬の往来が盛んになりました。峠の頂上に立つトチノキの木は、峠に向かう人々の目印として親しまれてきました。この峠一帯はトチノキが群生し、峠の名前もそれに因んで付けられたと言われています。

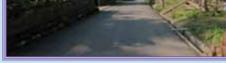


山中峠 C-2
飛鳥時代/山中

敦賀市元比田と南越前町山中の境界尾根にある標高約390mの峠です。天長7(830)年に木の芽道が開通し、ここが官道(北陸道)になりましたが、山中峠越えは、その後も絶えることなく利用されました。

72 湯尾峠 C-3 町指定
飛鳥時代/湯尾

湯尾峠一帯は、古代の官道・北陸道から現代の北陸自動車道にいたるまで、北陸の主要幹線が集約している交通の要所です。歴史的合戦の舞台となった城跡や、孫輔子信仰の発信元としてにぎわった峠の茶屋跡など数多くの史跡が残っており、文化庁「歴史の道・遺産」にも選ばれています。



朝倉街道 B-4
室町時代/牧谷峠～鯖波

朝倉氏は、北陸道のバイパス道として東側に並行して走る「朝倉街道」を整備しました。一乗谷を起点に北は丸岡、南は鯖波に至るまで、越前国内の各地を軍事的、経済的に結び付ける非常に重要な道でした。



69 石造りアーチ橋(桜橋) 町指定 B-2
明治19年/赤坂

明治14(1881)年の福井県誕生の後、嶺北と嶺南を結ぶ最初の車道として「春日野道」が開削されました。「石造りアーチ橋」は、明治19(1886)年の開通時に河野川に掛けられたもので、北陸地方では珍しいものです。



ホノケ山登山道(塩の道) B-2
飛鳥時代/奥野々～菅谷

ホノケ山は、かつてロシ合があったことからこの名がつけられたと言われています。ホノケ山の原生林の中を走る「切り通し」は、深さ6mにも達するところもあり、この道路がかつては軍事・経済上大事な役割を果たしていたことを物語っています。



南越前町内を通る歴史の道



史跡 城跡・信仰遺跡・避難洞窟



2 杣山城跡 B-4
鎌倉時代末期/阿久和ほか 国指定

杣山の山頂にあり、自然の要害といえる険しい崖を利用してつづられた山城です。鎌倉時代、越後国が当地に移った瓜生氏が城を築いたといわれています。南北朝の騒乱時、金ヶ崎城陥落後は南朝方の越前国における拠点となった堅城であり、延元3(1338)年新田義貞はこの城を出て国府を占拠し府中を攻略しました。その後、北朝方の新波氏の居城となり、朝倉氏の時代にはの家臣河合氏が城番を務めました。山城は、標高492mの「本丸」を中心として東西に「東御殿」「西御殿」と呼ばれる曲輪が築かれています。山麓には城下町があったとされ、城戸や礎石建物跡が残る城址の「居館跡」や家臣の屋敷跡が存在します。



山頂山城の縄張り図



74 鏡ヶ城跡 C-3 町指定
平安時代末期/今庄

今庄宿の背後にある通称愛宕山に築かれた標高267mの小高い山城です。最初の合戦は寿永2(1183)年、平家一門と木曾義仲の戦いでした。平家打倒の旗を挙げ北陸路から都に攻め入ろうとした義仲に対し、平家の総大将平維盛以下10万の大軍が押し寄せました。義仲は仁科守弘に鏡ヶ城を築かせ、決戦を前に日野川をせき止め人造湖を造りましたが、平泉寺史長齊明義儀の裏切りにより堰が切れられ落城しました。その後延元(1336)年、今庄入道浄慶の居城となり、足利軍に味方して新田義貞等と対峙しました。天正元(1573)年には一向一揆勢が立て籠もった信長に対抗した巨石の敗れ、その後廃城になりました。山頂には投石に使ったといわれる巨石が散乱し、物見精跡・堀切跡・石垣などが残っています。



木ノ芽峠城塞群 78 鉢伏城跡 79 観音丸城跡 80 木ノ芽峠城跡 81 西光寺丸城跡 室町時代～安土桃山時代/ニツ屋・板取 町指定 D-2、D-3

木ノ芽峠一帯の尾根筋には、鉢伏城(762m)、観音丸城(630m)、木ノ芽峠城(620m)、西光寺丸城(643m)と呼ばれる4つの城跡が残っており、それぞれ独立した城でありながら峠の防御線として連携を持った城塞群として構築されています。4つの城のうち鉢伏城と木ノ芽峠城は、記録に残っていないものの南北朝期の築城と推定され、現在確認できる城の遺構は戦国時代のもので、観音丸城と西光寺丸城は、天正年間、一向一揆の城として構築されたようです。



光明聖寺遺跡群 C-3
飛鳥時代/今庄

今庄宿の西には藤倉山(643m)と鍋倉山(516m)があり、この両山の麓にはかつて七堂伽藍があったといわれる神尾山光明聖寺の遺跡があります。飛鳥時代に始まる旧村落と見られる旧前集落が、光明聖寺を中心に存在したことが伝承されていて、今でもおもに石室や塼壁が残っています。



65 下長谷の洞窟 B-1 町指定
室町時代前期/甲斐城

奥行き20mを超す甲斐洞窟群最大の洞窟です。延元2(1337)年の金ヶ崎城落城の際、城を抜け出した後醍醐天皇の皇子・恒良親王をかくまった場所といわれています。



70 円宮寺の避難洞窟 C-2 町指定
安土桃山時代/河内

天正3(1575)年、一向一揆勢と織田軍との戦いにおいて、海岸線の防備についた円宮寺良親が、織田軍の急襲によって退路を絶たれ身を隠した洞窟です。良親を献身的に庇護した村人たちの美談が伝わっています。

68 マンダラ寺遺跡 B-2
平安時代末期/赤坂 町指定

矢良岳岳(472m)の中腹に位置するマンダラ寺遺跡は、地元では「オマダラ」と呼ばれ、古くから土器などが出土する場所として知られていました。奈良時代以降に多くみられる山本仏教寺院で、教学の研鑽などを目的とする修行の場であったと考えられます。



蓮如上人旧跡 B-6
室町時代中期/手ヶ平

文明3(1478)年、比叡山の僧に遭われた本願寺第8世蓮如上人は、越前に難を逃れたどり着いた手ヶ平の老母の案内で、岩屋にかくまわれました。信者となった老母は形見に六字名号を与えられたといわれます。

建造物 船主館・宿場町・鉄道遺産・砂防堰堤



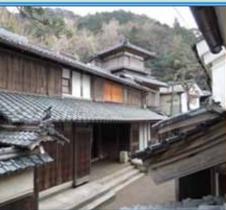
北前船主の館 右近家 B-1
明治34年/河野

右近家は江戸時代中頃から北前船主として活躍し、全盛期には30余隻を所有しました。以後、北前船の衰退と共に蒸気船を導入し、海運の近代化を進めると共に海上保険業に進出するなど実業家としても成功を収めました。現在は外観がスイスのシャレー風、内部が和風になっています。天保時代の構えを基本に明治34(1901)年に建て替えられたもので、木造2階建ての主屋を中心に内蔵・長屋門・外蔵を配し、材料は北前船で産地から運んできたという豪勢な家構えの中に、上方文化を取り入れた繊細な造作意匠を見ることが出来ます。



1 旧右近家住宅 西洋館 B-1
昭和10年/河野 国登録

西洋館は、右近家の裏山に位置し、右近家11代当主が設計・施工を大林組に依頼し、昭和10(1935)年に完成した洋風建築です。1階は内外ともスパニッシュ様式で、2階は外観がスイスのシャレー風、内部が和風になっています。主屋は明治20(1887)年、新座敷が大正2(1913)年に建てられたもので、贅を尽くし、高度な技術と意匠に到達した船主館です。



1 中村家住宅 B-1 町指定
明治20年/河野

中村家は、江戸時代には上使番をつとめた家柄で、幕府の巡見使や福井藩主が度々当家を訪れています。一方、北前船の時代には早い早廻船業に乗り出し、同じ船持ちであった右近家と共に、成功をおさめました。建物は、旧村道を挟んで山側には平屋建て座敷をもつ2階建ての主屋、望楼をもつ3階建ての新座敷と2棟の内蔵、海側の土蔵群(5棟)と薬匠門とで構成されています。主屋は明治20(1887)年、新座敷が大正2(1913)年に建てられたもので、贅を尽くし、高度な技術と意匠に到達した船主館です。



1 旧京藤甚五郎家住宅 C-3
江戸時代後期/今庄 県指定

旧京藤甚五郎家住宅は、江戸時代、酒造業を営む一方で、鵜本陣にも指定された今庄宿有数の旧家でした。現在の建物は文政元年(1818)の大火後、天保年間に建てられたものと伝わっています。赤みの強い越前瓦を載せた屋根には卯建が上がり、外壁は全面塗籠のし各所に防火戸を設置するなど、当家の財力と防火意識が窺える大型の町家建築です。



12 旧旅館 若狭屋 C-3 国登録
江戸時代末期/今庄

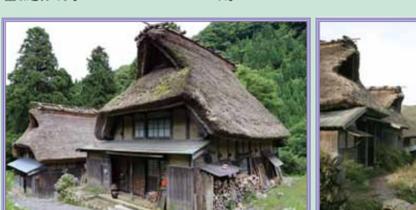
天保年間(1830～1844)の記録によると、今庄宿には55軒もの旅館がありました。幕末の建築とされる旧旅館若狭屋は、本造2階建て。現在の屋根は切妻造鉄板葺ですが、当初は板葺きだったといわれています。正面の平格子や両脇の袖卯建など、宿場町として栄えた今庄宿の当時の面影が感じられる数少ない遺構です。

14 旧昭和社会館 C-3 国登録
昭和66年/今庄

旧昭和社会館は、財団法人昭和社会を創設した田中 和吉氏により昭和6(1931)年に社会教育施設として建てられました。その後、旧今庄町夜場として、現在は公民館として利用されています。鉄筋コンクリート造3階建て、設計・施工は京都市の上田工務店。今庄宿に残る数少ない洋風建築として貴重な建物です。

13 明治殿 C-3 国登録
昭和7年/今庄

明治11(1878)年の明治天皇北陸地方御巡幸の際、今庄宿での行在所となったのが福井藩の本陣を務めた大庄屋・後藤家でした。その後、後藤家は今庄を離れますが、田中 和吉氏により数地内の整備が行われ、昭和7(1932)年、行在所を再現した10畳の座敷を備えた明治殿が建てられました。



板取宿 D-3
江戸時代/板取

板取は、天正6(1578)年、柴田勝家による北国街道の大改修の後、国境の宿場町へと発展を遂げ、江戸時代には関所も置かれた場所です。上板取に現存する茅葺き民家は、幕末から明治初期にかけて建てられたもので、「甲(かぶ)造り」型のうち今では見られなくなった形式の屋根も見られます。



11 高倉砂防 西高倉堰堤 C-5
明治35年/瀬戸 国登録

田倉川の支流・高倉川周辺には、巨石で積み上げられた砂防堰堤12基が点在しています。明治28(1895)年の大豪雨による土砂災害がきっかけとなり福井県の第1期砂防事業として築造されました。西高倉堰堤は、1.5mの巨石を野面積みの技法で高さ9.6mにまで積み上げられた堰堤で、圧迫的な重層感と迫力の景観と感動を与えてくれます。



旧北陸線トンネル群 C-2、C-3
明治29年/大綱ほか

明治29(1896)年に開通した旧国鉄北陸線の敦賀～今庄間(通称「杉津線」)には、レンガと石で積み上げた13基のトンネルが掘られました。現在、単線トンネルは撤去されましたが、馬蹄形のトンネルは当時のまま残っており、生活道路として再利用されています。

アカタン砂防堰堤群(9基) C-4、C-5
昭和33年～39年/古木 国登録

アカタン砂防は、田倉川の支流・赤谷川に築かれた9基の堰堤群です。高倉砂防と同じ福井県の第1期砂防事業として土造りの堰堤2基と石積み堰堤7基が築造されました。最大の堰堤は、堤長112m、高さ11mにも及び巨大なもので、石積みは岐阜県から専門石工を呼び寄せ「亀甲積み」で積まれています。建設機械のない時代に人力によって築造された堰堤ですが、100年以上経過した今も十分機能が続いています。



伝統文化 庭園・立華・民俗芸能



3 伊藤氏庭園 C-5 国指定
江戸時代中期/瀬戸

伊藤氏庭園は、江戸時代の庭園国本「築山庭園伝」を基に作庭された住宅庭園です。背後の山林を借景とし、その山麓に築山を造り、池泉を設け、中島や岩島を配した築山林泉式庭園であり、庭園園内に忠実な構成による地割りと配石が見られます。作庭当初の姿をよくとどめていることから、単に鑑賞的価値だけでなく、庭園史資料としても貴重な庭園です。



8 今庄羽根曾踊り C-3 県指定
平安時代/今庄

今庄西方の神尾山光明聖寺の南院で舞われた「難児の舞」が起源とされ、江戸時代の今庄宿隆盛時に、宿場の盆踊りとして今の形となったといわれています。伴奏の楽器は一切使わず、本音頭と付音頭等数名による掛け合いに合わせて踊られ、踊り手の袖や草履には鈴が付けられます。旅人とともに踊り明かした風情を伝え、踊り手は、百姓、町人、職人衆はもとより、武士、僧、女中、殿敷、虚無僧等の夜装束で踊られます。毎年、今庄夏まつり・街道浪浪今庄宿などのイベントで踊られています。



60 上野古典立華 B-4 町指定
江戸時代末期/上野

上野古典立華の創始は、安政6(1856)年、徳正寺住職と笛吹次次右衛門両氏が京都の池坊六角堂を訪れ、立華を学んだことに始まります。その後つづられた上野華道実業会により、両氏が習得した花形を今に伝えています。毎年2月中旬、「古典立華伝承展」が開催されます。



9 八坂神社の獅子舞 八坂 県指定 D-4

八坂神社の獅子舞は、疫病よけのため始まったと伝えられ、未婚の青年2人で舞を行います。村の草分けの家と自分の分家を「かみやしき」と呼び、祭礼の宵宮に獅子の地割りと踊り手のあし(合の手)だけで構成されています。伝統的な盆踊りの形態をとって構成し、かつ活気あふれる盆踊りらしさも継承しています。



7 上野の盆踊り B-4 県指定
江戸時代前期/上野

上野・栄楽寺境内において、毎年8月15日に催される盆踊りで、江戸初期に門間川の完成を祝って始められたと伝えられています。踊りは「どど踊り」から始まり、「はねろ踊り」を中心としながら、最後「干木鷲」で終わるといって、一連の流れが守られており、音頭は太鼓などの楽器伴奏が入らず、音頭取りの地割りと踊り手のあし(合の手)だけで構成されています。伝統的な盆踊りの形態をとって構成し、かつ活気あふれる盆踊りらしさも継承しています。



7 上野の盆踊り B-4 県指定
江戸時代前期/上野

上野・栄楽寺境内において、毎年8月15日に催される盆踊りで、江戸初期に門間川の完成を祝って始められたと伝えられています。踊りは「どど踊り」から始まり、「はねろ踊り」を中心としながら、最後「干木鷲」で終わるといって、一連の流れが守られており、音頭は太鼓などの楽器伴奏が入らず、音頭取りの地割りと踊り手のあし(合の手)だけで構成されています。伝統的な盆踊りの形態をとって構成し、かつ活気あふれる盆踊りらしさも継承しています。